

ドキュメンタリー映画

「飯舘村の母ちゃんたち」

制作支援 ダイジェスト版 上映会

☆福島県飯舘村の人々は、原発事故により故郷を追われ、今も避難生活をおくっています。報道ジャーナリスト古居みずえ監督は現在、この飯舘村の女性たちに密着し、ドキュメンタリー映画の制作をすすめています。今回、監督をお招きしダイジェスト版の上映&トーク会を開催いたします。どなたでもお気軽にご参加ください。

日時：5月3日（土・祝）午後2時（開場1時半）

ゲスト：古居みずえさん（映像ジャーナリスト）

島根県生まれ。アジアプレス所属。JVJA会員。1988年よりイスラエル占領地を訪れ、パレスチナ人による抵抗運動・インティファダを取材。パレスチナの人々、特に女性や子どもたちに焦点をあて、取材活動を続けている。98年からはインドネシアのアチェ自治州、2000年にはタリバン政権下のアフガニスタンを訪れ、イスラム圏の女性たちや、アフリカの子どもたちの現状を取材。新聞、雑誌、テレビ（NHK総合・ETV特集、NHKBS1、テレビ朝日・ニュース・ステーション）などで発表。ニコンサロン、ユニカプラザなどで写真展開催。著書に『インティファダの女たち』（彩流社）、写真集に『瓦礫の中の女たち』（岩波書店）など。ドキュメンタリー映画『ガーダ パレスチナの詩』（2005年）、TVドキュメンタリー『封鎖された街に生きて～ガザ ウナム・アシュラフ一家の闘い～』（NHKBS1 2008年）、『子どもたちは見た～パレスチナ・ガザの悲劇～』（NHK BS1 2009年）など。2005年DAYS JAPAN審査員特別賞受賞。2006年10月、第1回監督作品「ガーダ パレスチナの詩」が第6回石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞受賞。最新作はドキュメンタリー映画『ぼくたちは見た』（2011年）。昨年より福島県飯舘村で撮影を続ける。



●「飯舘村の母ちゃんたち」ダイジェスト版上映（40分）

●古居みずえ監督トーク 聞き手：大河内秀人（見樹院住職・パレスチナ子どものキャンペーン理事）

長年パレスチナの女性や子どもの生活に密着し、映像に記録してきた古居みずえさんが、初めて国内で撮影を進めているのが「飯舘村の母ちゃんたち」(仮題)です。福島県飯舘村は、原発事故が起きた 1ヵ月後の2011年4月に全村が計画的避難区域に指定され、村人たちは住み慣れた故郷を離れざるを得ませんでした。あれから2年半が経っても、未だに帰村の見通しすら立っていません。

古居さんは、表に出ることが少ないアラブの女性たちを長年にわたり撮り続けていきました。60年以上、困難かつ閉塞した状況に閉じ込められている社会の本質を、女性と子どもの視点から世界に問いかけている取組みは貴重であり、『ガーダ』のような作品を生み出しました。状況の改善が難しく困難の長期化が予想される取材対象の人々との時間を大切に、飯舘村の人々とも同様に、素直な共感をもって訪ね、困難だけではなく、逞しさや喜び、そして未来への可能性を共有し、決して忘れてはいけない、通り過ぎてはいけない問題を私たちに伝えてくれます。

短い時間ですが、パレスチナもからめてお話を伺いたと思います。伝わりにくい、見落とされがちな、忘れられる現実に対し、外部の立場とはいえじつは彼女らの境遇に関わり（責任と可能性）を持っている私たちのあり方を考えたいと思います。

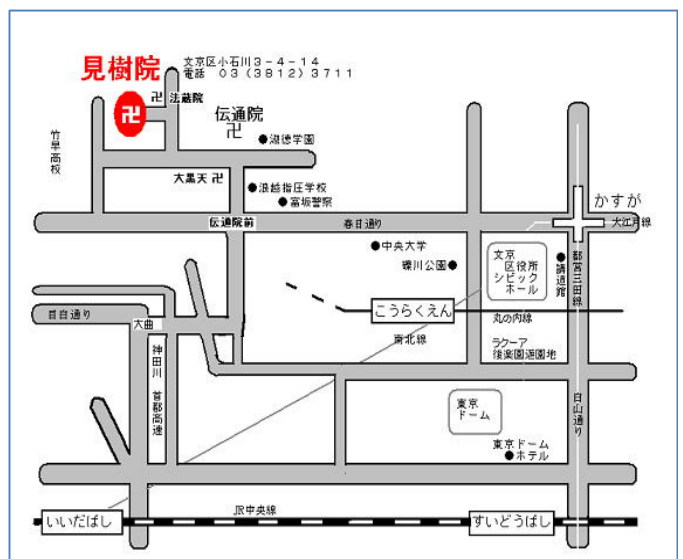
会場：見樹院 文京区小石川3-4-14

<http://www.nam-mind.jp/>

参加費：500円（できたら制作支援カンパもぜひ）

申込・問合せ：メール Kenjuin@nam-mind.jp

電話 090-3213-4575(大河内)



地下鉄「春日」または「後楽園」より徒歩 15 分
都バス都 02(大塚ー錦糸町)・上 69(小滝橋車庫ー上野公園)「伝通院前」

見樹院 & 表町町会有志 & 福島支援「味噌の里親」プロジェクト 共催